取組4　ダイバーシティ研究環境実現モデル開発

1 モデル開発の実施体制

- 代表機関である広島大学が中心となり，共同実施機関，および推進協議会メンバー機関と連携して，ダイバーシティ研究環境を実現するための取り組みのモデルを開発する。
- モデル開発に向けて，各機関で調査を実施する。調査は，広島大学のダイバーシティ研究センターが中心となって進める。同センターで，複数の学問分野（心理学，社会学，文学，経営学など）の専門家からなるチームを編成し，多角的な視点から課題にアプローチする。

モデル開発のための調査の流れ

機関の人事担当者と意見交換（ダイバーシティ実現のための現状把握）
▶
機関の構成員に対して調査を実施（聞き取り調査，アンケート調査，統計分析，テキスト分析）
▶
ダイバーシティを阻害している要因を明らかにし，改善策を試験的に機関で実施
▶
効果を検証し，さらなる改善策の提案，実施，検証のサイクルを進める

モデル開発と発信

- 多種多様な機関での調査で得られた知見に基づいて，ダイバーシティ研究環境を実現するための取り組みのモデルを開発する。
- 本事業の各機関のみならず，他の分野や業種，あるいは広島に限らず他地域でのモデル適用可能性を検討し，その成果を広く国内外に発信する。

2 本事業の効果測定と発信

- モデル開発に加え，本事業の効果を測定するための調査を行う。
- 本事業の実施前後に，各機関でアンケート調査を行って，意識の変化などをとらえ，本事業の取り組みがもたらす効果を検証する。
- 調査の結果は，第三者評価などの基礎データとする。

進捗状況と今後の予定

2017（平成29）年度

- 共同実施機関であるマツダ株式会社およびデルタ工業株式会社の現状について，各機関の人事担当者と意見交換を行い，調査の概要を検討した。
- 調査概要の検討後，まずデルタ工業株式会社で，職務や家族構成の異なる複数の従業員に対して聞き取り調査を実施した。
- 共同実施機関である国際開発センターと，同センターが実施する調査について意見交換を行った。
- 本事業の効果測定のための事前事後調査に備え，質問票を検討した。

2018（平成30）年度以降

- 2018（平成30）年度には，共同実施機関で調査を進め，調査で得られたデータをもとに課題を整理し，改善策実施のための協議を行っていく。得られた知見を，推進協議会等の場でメンバー機関と共有することで，ダイバーシティを推進していく。
- 事前調査を2018（平成30）年度早々に実施するため，各機関との調整を進める。